

宇宙天気インタブリタ育成カリキュラム開発の5年計画の4年次の状況

○野澤 恵¹ 近藤 咲里菜¹ カリキュラム 開発チーム¹ (1.茨城大学)

太陽活動の諸現象が電離圏や磁気圏など地球に与える影響のことを宇宙天気と呼ぶ。現在は第25太陽周期のピークを過ぎ、下降期になりつつある。しかし下降期には巨大黒点や大規模フレアが発生する可能性が高い。大規模な宇宙天気現象が与える被害に対して、社会的影響範囲の広さから宇宙天気の専門家だけでは社会システム全てに応ずることは難しい。宇宙天気に対応するためにはそれぞれの業界の専門家がリスク対応を正しく行う必要がある。そのため宇宙天気リスクを評価し、対応する宇宙天気インタブリタの育成が急務となっている。野澤は2023年度から科研費基盤C「宇宙天気予報を深化させた宇宙天気インタブリタ育成カリキュラムの開発」(23K02807、期間5年)に採択され、この実践を行っている。実践は4年目となり、昨年度までに、宇宙天気インタブリタ育成のための実践として、気象キャスターネットワークを中心としたオンラインの講義を行なった。これを受け、宇宙天気の初学者のためのシラバスやテキスト作りを最近のAIを用いて行なった。これにより、非常に安価であり、内容も充実した教科書が作成でき、オンラインテキスト化された。このようにカリキュラムの骨格ができた。今後、宇宙天気予報士が具体化してきた場合の課題として、予報士試験のための検定用を模した民間としての問題作りなどがある。また並行して、様々な業界に就職し社会の中心となっていく学生に焦点を向け宇宙天気の教育カリキュラムの実践方法の提案を行なう。また実務で宇宙天気を扱うグループも加え、そのカリキュラムのサポートとして、前線で研究を行っている講師陣と議論の環境作りも考えている。本講演では、今までのまとめと今年度前期の評価などの報告も行なう。